



北海道 造形教育 連盟報

No.149 2019.12.10発行

発行 北海道造形教育連盟

会長 森長弘美 (札幌市立宮の森中学校長)

事務局長 東 尚典 (札幌市立有明小学校長)

事務局 札幌市立有明小学校

〒004-0821

札幌市清田区有明141-2

TEL(011)881-2949・FAX(011)881-9074

北造連HP <http://hokuzou.kir.jp>



第69回北海道造形教育研究大会道北ブロック大会を終えて



第69回北海道造形教育研究大会道北ブロック大会

実行委員長 吉中博道

(美瑛町立美馬牛小学校)

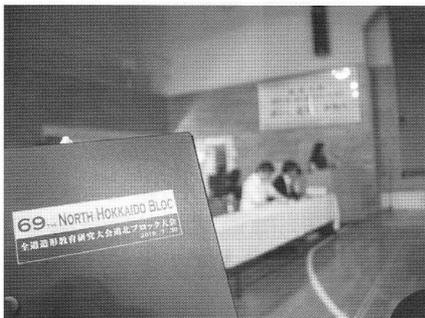
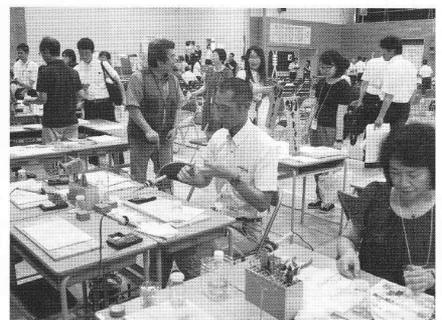
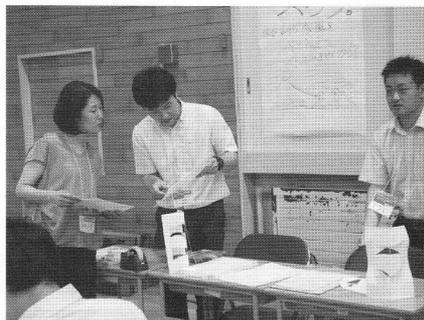
第69回大会も暑い中での開催となりました造形教育研究大会でした。今回、特に道北ブロック大会ということで、これまでにないエリアでの開催ができましたことを、まずはお礼申し上げます。

今回のテーマ「『わたし』を映す」は北海道造形教育研究会のテーマ「『わたし』を創る」を踏まえ、我々の「主体的・対話的で深い学び」を具体化し、「自分なりの意味や価値をつくりだし、主体的に表す喜びを味わう子」を目指したものでした。その中で、「題材」「指導」「評価」の工夫を通してよりよい造形活動を追求してきたその成果を、幼稚園から高校までのそれぞれの発達段階で見ていただくことができたものと自負しております。

過日、この大会を締めくくる実行委員会を開催し、総括を行いました。今回は初の道北ブロック大会と

いうこともあり、手探りで進めてきた部分も多くありました。大きな成果と手ごたえと共に、今後、道北ブロックという広大なエリアの中で、いかに充実した共同研究を進めるか等も検討しています。今大会はゴールではありません。道北の造形教育充実のスタートとして未来につなげていく所存です。

ご支援いただきました北海道教育委員会、上川教育局、旭川市教育委員会をはじめとする関係各位、会場をお貸しいただいた旭川市立永山中学校の皆様にも篤くお礼申し上げます。また、今回の研究大会を共に作り上げた旭川・上川・留萌・宗谷の仲間たち、そしてご参集いただき、熱い議論を戦わせていただいた皆様に、改めてお礼を申し上げ、第69回大会を締めくくりたいと思います。



幼稚園 おしゃれな黒ネコ（描画）
年中 長濱 萌（認定こども園百華幼稚園）



一人ぼっちの黒ネコ「ハルくん」のためにできることを考え「お友だちを作ろう」「かくれんぼをしたら楽しいかも」と墨で黒ネコのお友だちを描きました。墨の特性に気づき、にじみやかすれを利用したり、薄墨・濃い墨を使い分けたりしていました。活動後には「はやくハルくんに見せてあげてね」と優しい声が聞こえてきました。

幼稚園 わくわくトンネル（素材遊び）
年長 阿部 清香（旭川大学附属幼稚園）

段ボール、廃材を使用し、わくわくトンネルを制作しました。たくさんの材料、道具の中から自ら選択し、想像力を膨らませて夢中に取り組む姿が見られました。また、グループ活動を通して自分では気づけない発見を共有することで、より活動が発展し、自分たちで作った作品を楽しんで遊んでいました。



小学校 大すきなものがたり（絵に表す）
3年生 大山 みのり（上川町立上川小学校）



子どもたちへの温かいメッセージをたくさんいただき、ありがとうございました。子どもたちは自信がついたのか、夏休み後も最後まで楽しく作品を仕上げることができました。自分の指導を見つめ直す素晴らしい機会を与えていただいたことに感謝申し上げます。

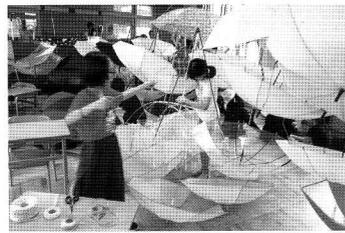
第69回全道造形教育研究大会
道北ブロック大会
 研究テーマ『わたし』を映す

道北が一丸となった初の大会

第69回全道造形教育研究大会道北ブロック大会事務局長 吉野 法行
 この度は、道北ブロック大会にお越しくださり、ありがとうございました。道北が一丸となった初の大会を無事盛会のうちに終了することができましたのも、足を運んでくださった皆様のおかげです。大会のまとめなどに関しては、Webで公開予定です。

小学校 ひらいてみると（造形遊び）
6年生 佐藤 賢一（旭川市立近文第一小学校）

色とりどりの傘から発想し、場の雰囲気を変える造形遊びをしました。子どもたちは、空間と対話しながら夢中になって取り組み、あっという間にダイナミックな場をつくりあげました。傘の色や配置、組み合わせに、「思い」「発見」をたくさん見つけることができました。



中学校 「わたし」を映す生き物（彫刻）
2年生 東 加奈絵（比布町立比布中学校）



自分の思いや願いを主題に、想像の生き物を軽量粘土で表現する題材です。導入の「試しの活動」で材料の性質や特性を理解させるとともに、自分の意図に合った方法や技法を追求できるよう、これまでの学習の振り返りや、生徒の表現のよさや工夫を共有することを心がけました。

高等学校 イメージしよう！抽象表現の鑑賞
1年生 河野 昌一（北海道旭川永嶺高等学校）



それぞれの作品を鑑賞し、提示されたテーマに合う作品を選び出していました。迷いながらも一人一人の感性が発揮された時間になりました。「このクラスは、はじめは明るいだけかと思ったけど、芯の強い人が多いと感じ、この作品にしました。」など、形と色からイメージされた造形的な感じを根拠に交流しました。

中学校 彫刻巡回展示出前授業（鑑賞）
3年生 杉森 藍（旭川市立永山中学校）石川和也（旭川市立忠和小学校）中明千穂（音威子府村立音威子府小中学校）



まずはじっくりと「見る・触る」ことから作品と関わり始めた生徒達。互いの気付きを語り合う中で、作品の醸し出すイメージを自分達の言葉で紡ぎ上げていく姿が見られました。初めは漠然とした印象で捉えていた彫刻が、生徒達にとって意味のあるものへと変わっていきました。

幼稚園 つないでつなげてつなげれば (造形遊び)
年長 新井 美喜 (認定こども園百華幼稚園)



「玉結びができた！」色々なひもと出会い、触っているうちに遊びが広がり、できることが増えました。スズランテープをさいて「タコ作ったよ～」と特性に気付

いたり友だちと協力したりしながら、たくさんの空間や思いをつなげ、思いっきり遊びました。

幼稚園 はっぱっぱ こっぼっぱ (素材遊び)
年長 佐藤 羽由佳 (旭川大学附属幼稚園)



様々な形、色、匂いの木片や木の枝、葉っぱを使い、わくわくランドを作りました。子どもたちと一緒に「あったらいいもの」をイメージしながら自由に表現して

いきました。普段から慣れ親しんでいる自然物を題材にすることでのびのびと取り組み、新しい遊び方を知るきっかけとなりました。

旭川地域連携 旭川美術館公開鑑賞会
アートプロジェクト 美術館+大学+上川旭川美術部連携協議会

「全道大会において美術部の活動をお見せしたい」と、ずっと願っていました。上川旭川の特徴の一つである美術館との強い結びつきを、授業だけではなく、部活動の面でも見ていただきたかったのです。管内の美術部員800名超のうち、60名ほどの活動を見ていただきましたが、活動の一端をご理解いただけたのではないのでしょうか？



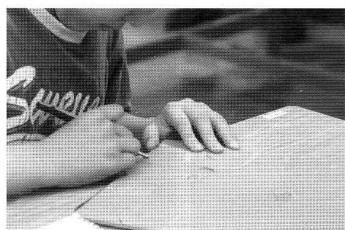
幼稚園 ともだちハウス (立体に表す)
年中 盛永 枝里 (北海道教育大学附属旭川小学校)



自分だけの「小さなともだち」が喜ぶ家をつくる題材です。自分なりの「小さなともだち」への思いを基に、相手意識・目的意識をもつことを大切にしました。実際に家に入れて試したり、友達の活動のよいところをまねしたりしながら、自分が表現したいことを工夫して表そうとする姿を目指しました。

小学校 版から広がる世界 (絵に表す)
5・6年生 阪部 あずさ (美瑛町立美馬牛小学校)

子どもたちの思い出がいっばいつまった修学旅行の絵を彫刻刀を使って彫り進み版画で表現させたい。たくさんの思いを言語化し描きたい場面や情景が一枚の絵になりました。そこから、色や彫り方を工夫するのは難しく課題としてはどうなるのかと反省する部分もありますが、試しの活動など楽しみながら主体的に学ぶ姿勢をみることができました。

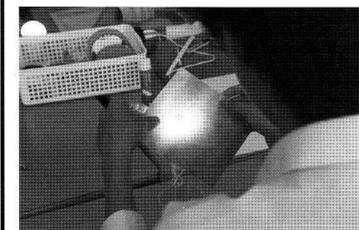


中学校 CMを鑑賞しよう (鑑賞)
2年生 鳥本 匡平 (旭川市立北門中学校)



タブレットPCを使いながらCMを鑑賞し、その魅力や造形的な工夫について考え交流する授業をさせていただきました。多くの先生方にご参観いただき、ご意見を交流できたことで、私自身この題材についてさらに考えを深めることができました。どうもありがとうございました。

中学校 心をともしあかり (デザイン)
2年生 島本 さとみ (士別市立士別中学校)



紙素材をメインとしたランプシェイド製作の中で、たくさんの素材を用意し、試しの活動を行うことで生徒の発想を促す授業を目指しました。討議では、素材の

大きさや教室環境、共有の方法等、今後に生かすことのできるアドバイスを頂くことができました。ありがとうございます。

小学校 彫刻巡回展示出前授業 (鑑賞)
6年生 杉森 藍 (旭川市立永山中学校) 石川和也 (旭川市立忠和小学校) 中野千穂 (音威子府村立音威子府小学校)

「この作品は人を表現してるんだけど、どう見たらいいのかな」など、ファシリテーターの先生の語りかけによって子どもたちのイメージが広がりました。「もしかしたら、抱っこしてるんじゃない?」「そう見えてきた」「なるほど、お母さんと赤ちゃんかも」作品のもつ力を子どもたちと一緒に実感した時間になりました。



第70回全道造形教育研究大会函館・渡島・檜山大会

美の開拓力 ～未来はぐくむ造形教育～



第70回全道造形教育研究大会函館・渡島・檜山大会事務局長 木村伸仁

「美の開拓力」とは、変化の激しい社会において、人とのかわりの中で課題を解決し、社会にとって意味のある提案をしながら、社会全体をよりよい方向へと変化させていくことができる「生きる力」を有する子どもの姿を意味しています。

今回は函館・渡島・檜山の造形教育サークルのみならず、北海道立函館美術館様とも連携しながら、美術館と学校教育との協力の在り方についても、公開授業を通じてご提案したいと考えております。

折しも東京五輪の開催期間と重なってしまいますが、未来をたくましく生き抜くことのできる「美の開拓人」たる子どもたちを育てていくための協議・交流を、皆様と共に進めて参りたいと存じます。

期 日：令和2年7月28日(火)

**場 所：函館市立巴中学校
(および道立函館美術館)**

□公開授業 幼稚園1 小学校2 中学校2
□講演 国立教育政策研究所教育課程
研究センター研究開発部
文部科学省初等中等教育局教育課程課
教科調査官

岡田京子氏

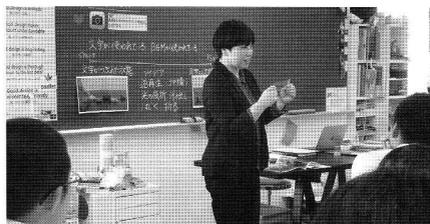
釧路造形教育研究会の活動

釧路市立武佐小学校 小濱 道子

釧路造形教育研究会の一年は、釧路市学校教育研究会の図工美術部会の活動とリンクしながら行う研究授業、小中学生の立体作品を集めた釧路造形教育展の開催、絵画コンクール等の審査、様々な学びのニーズに合わせた講師を招いて理論研修会や実技研修会を開催、そして楽しく懇親会！さらに、美術館の協力のもと更科先生を中心とした鑑賞を考える会を開いたり、アプリを使ってWEB上で情報交流をしたりと、少ない会員数ながらも充実した活動を行っています。釧造研では、幼・小・中・高校教諭、大学生、教授、学芸員、美術に携わる人…様々な分野の人達がつながることができるので、視野が広がり新鮮な学びができて嬉しいです。

10月23日には、附属釧路小・中学校で授業力向上セミナーが開かれ、文科省の岡田京子先生をお招きして、助言・講演をしていただきました。「先生が表したいこと」ではなく、「子どもが表したいことを見つける」そのためのきっかけをどうするか。附属小・登藤先生と附属中・更科先生の授業は、教科横断的であったり地域環境を生かしたり、授業づくりの考え方にたくさんのヒントを与えてくれました。

これからも、いろいろなつながりを大切にしながら、力まず、楽しむことを忘れず、前進していく釧造研でありたいと思います。そのために事務局としても会の運営を柔軟にデザインしていけるよう頑張りたいです。



第46回 北海道教育美術展

詳しくは、ホームページをご覧ください。
(<http://hokuzou.kir.jp/>)

作品展：令和2年1月10日(金)～13日(月)

会場：道新ギャラリー及び道新DO-BOX
(札幌市中央区大通西3丁目)

あ と が き

今年も雪の便り届き真っ白に輝く朝を迎えました。雪のある生活は何かと大変ですが、この美しさは雪の降る地域でなければ感じることもできない感動ですね。

さて、道北ブロック大会では授業実践などを通して、多くを学ぶことができました。全道各地からお集まりいただいた皆様の力で、造形教育の価値を感じることができました。また、題材屋台では各地区の交流ができました。次期、函館・渡島・檜山大会へとつなげていけるよう願っています。最後に連盟報の発行にあたり、原稿の執筆などたくさんのご協力をいただきました。ありがとうございました。

<北海道造形教育連盟 広報部> 篠原 貴・渡邊 千晴・小林 知広